

～皆さんがもっともっと大分県が好きになりますように・・・『まちづくりニュースレター』をお届けします～

1. まちづくり事例紹介

大分県内では、まちづくり事業にて、29地区でまちづくりが進められています。今回は、『タイムスリップ』をテーマとして取り組みをしている2つの地区をご紹介します。杵築地区（杵築市）、豊後高田”昭和の町”地区（豊後高田市）の2つです。

杵築地区（杵築市）

杵築地区は、まちづくり交付金（通称：まち交）にて、H17～H21年の5ヶ年での整備を行っています。

江戸時代の城下町の風情が残る杵築・・・杵築城を中心として南北の高台に武士が住みその谷あいには商人が住んでいた町。武士が商人を挟むように暮らした「サンドイッチ型城下町」は、日本唯一と言われています。

そんな歴史的価値ある杵築地区では、歴史的景観を保全・再生することにより、観光客を増やし、「まちの賑わい」を創出するべく街なみの雰囲気づくりに取り組んでいます。

平成21年1月1日に、新たな観光拠点施設となる観光交流センター「きつき衆楽観」がオープンしました。商人の町にある旧酒蔵（大正時代）を改修し、大衆演劇を主に、ミニコンサートなどを行っています。館内には地元特産品を揃えた販売所や地元産の食材を使ったグルメを提供するレストランなど、観光客の憩いの場を提供しています。また、観光案内スペースでは、よりよい城下町散策を行っていただけるよう、観光客に市内の観光情報を発信しています。

現代社会に疲れた“あなた”、私もその一人ですが、一緒に江戸時代へタイムスリップしませんか？町がまるごと『江戸村』の杵築を、ぜひ一度は散策してみてください。自信を持ってオススメします。



▲サンドイッチ型城下町「PRポスター」



▲新たな観光拠点施設「きつき衆楽観」オープン



▲武家屋敷と商人の町をつなぐ「酔屋の坂」

豊後高田”昭和の町”地区（豊後高田市）

大分県を代表する観光地の一つになった豊後高田市「昭和の町」。昭和の町地区においてもまちづくり交付金（通称：まち交）が活用されており、H18～H22年の5ヶ年での整備を行っています。

平成13年度から『商業と観光』の一体的振興策として、「昭和の町」づくりという明快なテーマのもとに、店舗修景（お化粧直し）、かつて1万俵の米を納めていた旧農業倉庫を活用した観光拠点づくり（昭和の夢町三丁目館）、地元住民がまちを紹介する「ご案内人」制度など、オリジナリティある取り組みが行われています。

豊後高田市中心市街地が一番元気だった時代『昭和30年代』を合い言葉に、商業者・商工会議所・行政等が一体となって、まちづくりを行っており、さまざまな取り組みが相乗効果を生んでいます。今では、中心市街地に年間36万人（平成19年）を超える観光客が訪れるようになり、中心市街地活性化の成功事例として全国的にも注目されています。

昨年12月には、懐かしい車が勢ぞろいするイベント「昭和の町レトロカー大集合」が行われました。子供も楽しめる体験コーナーなど、各種催し物が盛りだくさんあり、車好きな人をはじめ、子供連れの家族など、県内外の観光客が多数訪れ、大盛況の1日でした。このような観光客を呼び込む仕掛けづくり「ソフト事業」において、私たちも学ぶことが多く、このノウハウ等をまちづくり活動している県内各地区へ情報発信していきたいと思っています。

このイベントの一環で、昭和30年代の雰囲気合う「ボンネットバス5台」が市内を走りました。乗車した観光客にもこれまた大好評で終日満席でした。豊後高田市では、市内の観光スポットを結ぶ周遊バスや観光PRでの活用として、「ボンネットバス」本格導入を検討しています。「昭和の町」の新たな挑戦に、今後も目が離せません。注目度“三つ☆”です。



▲新たな観光拠点施設「昭和の夢町三丁目館」



▲大盛況イベント「レトロカー大集合」



▲昭和の町にマッチした「ボンネットバス」



▲昭和の町を演出する「店舗修景」

<編集後記（担当：浅井記者）>

まちづくり関連のご質問やご相談がありましたら、まち班まで気軽にご連絡ください。まちづくり3人衆（津末、浅井、辰本）がお待ちしております。また、まち班のHPでも、まちづくり情報を発信していきますので、ぜひご覧ください。

↓まち班のHPへアクセス↓

大分県 まちづくり推進班

検索